



日刊日曜日 日休月一ヶ月廿五 日休月一ヶ月廿五 日休月一ヶ月廿五

石双二郡に縣の幹旋 乾蘭組合聯合會組織

縣の徳意による産業組合石城 部の臨時總會は来る八日午 前十時から平町團休事務所樓 上に於て開催されるが右の産 蘭處理統制法による乾蘭組合 聯合會組織に關する協議の爲 めで縣廳系課から鍋岡技師及 び經濟更生課から中西主事出 張指導説明あるもの、如く聯 合の區域は石城、双葉二郡に 亘るもので翌九日は富岡町に 於て同様の協議會を開き速く も來る春實現期までには結成さ せる方針の如くである

神谷農事實行 組合長會

石城郡神谷農事實行組合では 去る二日同村小學校講堂に於 て農事實行組合長會を開催し て村内二十二ヶ組合長を會し て左記諸項その他明年度計畫 事業に就き協議した 各組合は神谷産業組合に若 干口加すること、納税組合

好開川水源 淨化組合

規約及び役員選任 平野管下好開、内郷、箕輪、 湯本、平の五ヶ町村が昨秋 水源地箕輪村に於ける腸チフ スの發生から同傳染病の猛烈 なる流行に遭ひ好開川水源保 存衛生組合を組織し淨化に盡 す等とは昨報の如く同創立總 會は来る六日午前十時から平 野會議室に於て開催される協 議の事項は水源淨化衛生に關 する具体方法並びに規約十一 條の制定と會長、副會長各一 名、幹事若干名、書記一名、 顧問若干名を置く其の選任そ の他組合の維持費及び當日出

少年劍士百余名 豪華の大合戦

來る二十一日平第三校にて 武徳會の平、四倉、植田三分 津(四倉等)大塚、門馬(平刑 務所)小野寛美、佐藤(平) 齋谷(高久)諸氏の由であつて 當日は地方稀なる少年劍士聚 華の合戦を見せられると 平方部八校、四倉方四校 植田方四校(以上)

建國祭協議會

平町が来る十一日の紀元の佳 節に建國祭を舉行することは 昨報の如く明五日(午前十時 午後一時の筈を繰上げ)左記

座講識常

オリエンタルは東洋の意 だ、オリエンタリスト なら東洋人、東洋の學 に通ずる學者、オリエ ンタルと云へば東洋の 方の東洋の或は東洋人 聖典を指すオリエン タリズムは東洋學、 在郷軍人分會、軍友會 青年團、青年學校、商業學 校、警察署、愛媛婦人會

十六の娘に懸想 娘の父に不心得を論されて

石城郡赤井村の日本産業工場 粘土採取坑夫香川縣香川郡川 岡村生れ當時赤井村諏訪原一 九居住の田中職吉(四)は獨身 生活で隣家なる同坑夫鬼村 富吉(四)方へ入浴に行くなど 親しい交際をしてゐたが富吉 の妻とも(二)に懸想し昨 年八月頃から同女を手をづく べく最近までに金五十餘づつ 三回與へて情慾を挑んだとこ ろ勿ねつけられた上ともゐか ら實父に次第を告げたので鬼 村から不心得を論された事か ら口論の未了となり去る一 月二十五日喧嘩の仕返しだと

鮫川堰農業水利 復活工事視察

石城郡南に於ける鮫川江農業 水利復活工事は順調なる進捗 を見せてゐるが来る七日在平 町記者の視察ある筈で同日 午前九時平町團休事務所集 合一行十余名自動車に分乘し 上遠野村の根岸に於ける本流

大相撲

平町町友好連によつて迎ひら れる東京大相撲男女の川一行 の巡行は来る二十三日同町元 博覽會跡に催されるが平地方 煙草小賣人組合では愛煙家慰 安の名の下に入場者歓迎に大 覽を得ば幸甚の至りである。

農會評議員會

石城郡農會では明五日總會を 開催されるが今四日午前十時 から評議員會を開いた

入場試験

石城は来る十日 縣立矢吹修練農場では明年度 入場の第三回修練生志願者十 名を募集の筈で縣下各郡から 志望者の發着中であるが石城 郡に對しては来る十日午前十 時平町團休事務所に於て場長 久山久衛氏出張人物考査をな す

猛競争

滿期改選の勢族で 磐城炭礦の保健組合では組合 員二十名の任期満了となる ため来る三月十四日改選を行 はれる筈であるが名譽心に強 い一般従業員間に早くも競争 を演出し縣内各地方の親和會 世話役並びに社宅世話役連等 に潜航的運動を開始されてゐ ると

湯本の賭博

石城郡湯本の八仙雜貨商遠 藤勝治(五)方於て去る三日 午前十時から午後一時半近く まで勝治外同人妻ちどりの(五) 及び同地(二)雜貨商熊田文治 (四)同地三八居住坑夫廣木弘 治(六)が現金賭けの花合戦中 平野目下踏み込まれて全部檢査 され目下取調中である

福運者

平町農商組合の舊歲末福引 賣出しは非常な人氣を呼びひ て三日から七日間開催中であ るが金二圓の買上毎に一抽づ つを引く初日の福運者は左記 の如くであつた

植田國防婦人會

石城郡植田町では國防婦人會 を組織中であつたが来る十三 日(夜良比)に處せられ、高天 原より追放されて出雲に降る 時の出來事であつて、命は大 氣津比賣神を訪問し、爲に一 縷の食事を乞ふたのであつた

末恐るべき 少女のスリ

平町で十數件 石城郡内郷村の木賃宿福原屋 方に止宿中の栃木縣那須郡高 林村藤田孝七女遊藝人とみ 子(五)假名は去る一月中から 平町内をうろつき紺屋町住吉 屋本店前掛けられた見世物 觀覽者の難容にまぎれ氏名不 詳のものから現金十六圓在中 の鞆口をスツた外常陽銀行脇 の他大道商人が露店を開く 人混み於て何れも被害者不 明のスリ十數件働いたこと發 覺して今四日朝檢査されたが 前記の悪事を全部自白して居 り尙ほ全罪の有無を取調中

佐々木綱紀翁

平町々會議員佐々木龍若氏の 殿父綱紀翁は同町守四軒町の 白邸に老後を静養してゐたが 去る三日午前一時逝去した行 年八十四、葬儀は明五日午後 一時大館會堂に於て營まれ ると

蘭に就て

近代社會の自由主義經濟の 下に如何なる行動も默許され 居る形大なる資本は、都會 經濟と農村經濟機構の接觸を 鋭敏化すると共に、争闘は階 級意識の再燃となり、資本主 義經濟發達史の一階段として 慘敗の片隅に追ひやられたる

日同町小學校講堂に於て發會 式を舉ぐる 末恐るべき 少女のスリ 平町で十數件 石城郡内郷村の木賃宿福原屋 方に止宿中の栃木縣那須郡高 林村藤田孝七女遊藝人とみ 子(五)假名は去る一月中から 平町内をうろつき紺屋町住吉 屋本店前掛けられた見世物 觀覽者の難容にまぎれ氏名不 詳のものから現金十六圓在中 の鞆口をスツた外常陽銀行脇 の他大道商人が露店を開く 人混み於て何れも被害者不 明のスリ十數件働いたこと發 覺して今四日朝檢査されたが 前記の悪事を全部自白して居 り尙ほ全罪の有無を取調中

